

プラタナス

那須赤十字病院 広報誌

No.39

2023年7月発行

Japanese Red Cross Nasu Hospital

 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

那須赤十字病院



新副院長挨拶

健診部

ロコモ・フレイルドック

社会課

赤十字ってvol.3

夏は、水分補給
を忘れずに

マイタウン・マイホスピタル
ミニニュース

お知らせ



新副院長挨拶

脳神経外科 河本 俊 介



本年4月1日付で副院長として赴任いたしました、脳神経外科の河本と申します。専門は脳血管外科で、くも膜下出血・脳動脈リゅうをはじめとした脳卒中の手術的治療に携わってまいりました。1986年に東京大学医学部を卒業後、脳神経外科に入局し、関連病院を経て2003年1月から2023年3月まで、獨協医科大学にて脳血管外科のチーム育成に尽力して参りました。当院には2007年より、難易度の高い手術の指導・支援にしばしばお邪魔しておりましたが、このたび副院長兼第一脳神経外科部長として赴任いたしました。

獨協医科大学では20年間にわたり脳血管外科チームのリーダーを務めさせていただき、脳動脈リゅうでは2,000件近くの手術を担当し、また脳血管以外では、脳腫瘍の中で手術難易度の高い聴神経腫

瘍の手術を一手に引き受けて参りました。幸いなことに、獨協の脳血管外科チームで共に歩んできた脳神経外科・脳血管外科専門医たちが当院に結集いたしましたので、これからは難易度の高い脳神経外科手術も当院でこなしつつ、地域医療の充実に力を尽くしたいと思っております。

当院での勤務はようやく4ヶ月になるうとしているところですが、改めてこの地域での脳卒中、特に脳こうそくと脳出血の多さに驚いています。当院は日本脳卒中学会認定の一次脳卒中センター（PSC）で、脳こうそくの症状が出たすぐに来院していただければ、血栓を溶解する薬剤（tPA）の投与が24時間36日行える体制が整っていますが、残念ながら薬剤投与ができる制限時間内に来院される方は、栃木県全体で見ても1/3程度、東北地域ではさらに低い率となっております。また急性期を過ぎてからのリハビリテーション、さらにはその後の慢性期の治療・療養まで、地域の医療機関とのスムーズな連携が不可欠です。各医師会の先生方との「顔の見える連携」を通じて地域包括ケアシステムを充実させ、住民の皆様安心して生活していただけるように力を尽くしたいと思っております。すでに症状が出てしまった方の治療はもちろんのことですが、脳の病気に関しては特に、病气そのものの予防と、症状が出る前の「先制治療」が重要です。予防の大切さをご理解いただくための啓発活動、また未破裂の脳動脈リゅうの予防的手術や脳こうそく予防のための脳血管バイパス手術などにも力を注ぎたいと思えます。

当院は東北地域での唯一の三次救急センターであり、脳卒中に限らずあらゆる疾患分野において、「専門性」と「時間との闘い」の2つの面を両立させる形で対応しなければなりません。このためには、各専門分野の医師確保が喫緊の課題です。現状では、脳神経外科を例に取りますと、栃木県の人口10万人あたりの脳神経外科医は4.6人で、全国平均の6.0人を大きく下回っており、しかも脳外科医の大半は宇都宮以南に偏在しています。また報道でもしばしば目に触れることと思いますが、来春からは「医師の働き方改革」が本格的に運用されることになっており、とくに救急医療の運営に関しては課題が山積しております。幸い当院では、職員一人ひとりが、病院を構成する重要な一員であることを自覚し、お互いを尊重し合っており、いつでも協力できるように日頃から深い信頼関係を築いている甲斐あって、医師のみならずすべてのスタッフのためにも努力で救急対応しております。これからも職域にこだわることなくすべての職員が協力し、病院全体が一丸となって課題に取り組み、より良い環境でより良い医療が提供できるように努力して参る所存です。今回副院長職を拝命し、幹部の一員として身の引き締まる思いがしております。一人ひとりの職員が皆幸せに働けることが、病院全体の充実・発展につながるが、それが地域の皆様の安心につながるものと信じております。これからご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

当院のロコモ・フレイルドックについて

健 診 部



リハビリテーション科部長 吉田祐文

人間ドックの目的は、予防医学の観点から自覚症状の有無に関係なく身体各部位の精密検査を行い、普段は気づきにくい疾患・臓器の異常・健康度などを確認することです。

健診部のロコモ・フレイルドックについて説明する前に、ロコモとフレイルについて簡単に説明します。ロコモ（ロコモティブシンドローム）とは、骨や筋肉などのケガや病気や老化で歩きにくくなった状態で、このままでは要介護に、場合によっては寝たきりになる可能性があります。フレイルとは老化や病気で心

身の活力が衰えた状態で、進行するとロコモになります。ともに早期に発見して早期に介入することで改善の余地があります。

ロコモ・フレイルドックでは、自分が現在ロコモ、フレイルのそれぞれどの状態であるのか、まだ該当していないのかを確認し、健康寿命（元気で健康に過ごすことができる期間、具体的には独歩でも杖歩行でも自分で歩いて移動できる期間）を少しでも伸ばすためにはどうすれば良いか、どんな運動をどのように始め、無理なく継続するために必要な工夫は何かを、一人ひとり個別に、ともに考える場です。

那須赤十字病院の医療圏の全ての住民の皆さんにこの言葉の意味と早期発見・早期介入の意義を理解していただきたいのですが、

- (1) 心身の衰えを自覚し始めた、あるいは心身の衰えにより思うような日常生活が送れなくなってきた六〇歳以上の方々、
- (2) 足腰の衰えを自覚し始めた、あるいは足腰の衰えにより思うような日常生活が送れなくなってきた六〇歳以上の方々、
- (3) は(1)、(2)に該当する親族がいる、あるいはその親族と一緒に暮らしている四〇代・五〇代の健常な方々、です。

ロコモ・フレイルドックでは、

- (A) 問診と簡易な検査で診断し、
- (B) 続いて幾つかの検査を行うことによ

り詳細な状態の把握をします。

- (C) さらに、これから行う運動のアドバイスをします。外出ができるかどうかで運動の目的と方法が変わるので、日常生活の内容を詳しくお聞きした上で達成できそうなプランを提示します。
- (D) そして一番重要なのは、運動を行う具体的な目的を明確に提示して、理解していただくことです。

(A)、(B) は他の施設でも行っていますが、当科は (C) と (D) が重要であると考え、リハビリ科とともに取り組んでいます。わたしは日本整形外科学会がロコモを提唱した初期からのロコモアドバイザーで、日本サルコペニア・フレイル学会の指導士に当院のリハビリ科の二人のスタッフと三人で認定されています。フレイルは漢方で言うところの虚証との共通点が多く、日本東洋医学会の専門医であるわたしには馴染み深いものです。

健康寿命を延ばすだけでなく、高齢者にはできるだけ長く自宅で入浴しトイレに行ける、家族には親の施設入所をできるだけ先に延ばす、ことのお力になるために、健診部はお待ちしています。

お問い合わせは「予防医学センター」
☎：0287-23-9979 までお願いします。

++++赤十字って++++



こんにちは、前回の「日本赤十字社のなりたち」について、佐野常民を紹介させていただきましたがいかがだったでしょうか。今回も「赤十字って」について知っていきましょう。

Vol. 3 日本赤十字社の組織としくみ

日本赤十字社は、日本赤十字社法という法律に基づいて設置された認可法人です。

日本赤十字社は、毎年一定の資金を納める会員及び様々な活動を展開するボランティアによって支えられ、また事務局として事業を行う本社・支部、事業を実施する施設として病院・血液センター・社会福祉施設などがあり、多角的に赤十字事業を展開しています。

日本赤十字社法で、「日本赤十字社は、社員をもって組織する」と規定されて

います。

ここでいう「社員」については、株式会社などの会社員という意味にとらえられてしまうことがあり、わかりにくさもあったため、平成二九年度に日本赤十字社定款を一部変更し、「社員」を「会員」に改め、「会員をもって日本赤十字社法上の社員とする」と規定しました。赤十字事業の趣旨を理解し、これを指示する人は老若男女を問わず、だれでも会員になることができ、また法人も会員として加入することができます。

会員は、日本赤十字社の組織の基礎をなすものです。したがって会員の増減はそのまま社業の消長に直結するため、一人でも多く、また一社でも多く会員に加入していただけるように努めています。

赤十字クイズ

令和四年三月時点の個人会員数は何人でしょうか。

- ① 約十万人
- ② 約二十万人
- ③ 約三十万人

答えは、次号で発表いたします。

《前号の答え》

日本赤十字社の創立記念日は次のうちいつでしょうか。

- ① 五月一日（一八七七年五月一日に博愛社が設立、一八七七年五月二〇日に現在の日本赤十字社に改称されました）

NEXT

Vol. 4

赤十字の標章について



3月 那須赤十字病院後援会からの寄贈

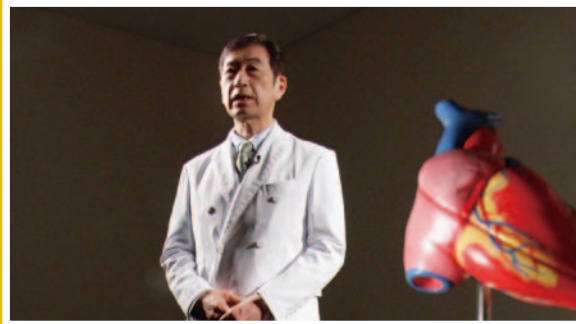
後援会会員の皆様には、普段から様々なご支援をいただいております。この度、歩行器4台を寄贈いただきました。患者さんへのホスピタリティの向上に活用するとともに、公的医療機関としての気を引き締めて適正な運営に取り組んで参ります。

日本労働者協働組合連合会センター事業団からの寄贈

ワーカーズコープの皆様から温かいご支援をいただきました。いただいたウォッシュクロスは院内各所の衛生環境を整えるために使わせていただきます。ひとつひとつのご支援が那須赤十字病院の医療を支えてくださっています。改めて御礼申し上げます。

4月 テレビ放映『健康カプセル！元気の時間』（TBS 系列全国ネット）

「～正しい知識で突然死を防げ～経験者に学ぶ“心臓血管病”」と題したテレビ番組の取材を受けました。番組には医師と理学療法士が出演しています。今後も地域の皆さんを中心に健康増進のための情報を積極的に発信し、地域に根ざした病院として医療を支えて参ります。なお、放映は5月21日（日）でした。



5月 「地域医療としてのがんの遺伝医療」

5月10日に医療従事者向けの講演会を行ないました。

「地域医療としてのがんの遺伝医療 - 日本医学会 医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン 2022年改訂の解説を含めて -」というテーマにて、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻腫瘍制御学講座（臨床遺伝子医療学分野）教授 平沢 晃 先生よりご講義いただきました。院内外の参加者にとって専門分野の進展について深く考える機会となりました。



6月 がんのつどい

6月3日（土）新型コロナウイルス感染症の影響で長らく開催を見送っていた「がんのつどい」を再開しました。院長から参加者の方々へご挨拶をさせていただき、参加できなかった医師からはビデオメッセージの放映で再開を分かち合いました。参加者同士でのフリートークでは、先輩患者さんからのお話が課題のヒントになるなど、和やかな雰囲気ではすすみました。

救護訓練

現役救護班と入職3・4年目の医療技術・事務部スタッフが合同で救護訓練を行ないました。6月の暑い日に、救護班の先輩方から熱い指導をいただきました。日赤スタッフは皆、緊急時に備えて訓練を受けています。





那須赤十字病院の役割

那須赤十字病院は「急性期病院」です。

急性期病院とは、救急車などで搬送される緊急・重症の患者や、地域の医療機関からの紹介患者に対し、高度な専門治療を行なう病院です。

治療が落ち着いたら、かかりつけ医あるいは近くのクリニックなどへご紹介いたします。

急性期・専門医療が必要になった際は、かかりつけ医の先生が病状に応じた病院を紹介してくれます。

「患者サポートセンター」や「かかりつけ医紹介相談窓口」を設置しておりますので、お困りのことがあればご相談ください。



上手な医療のかかり方 .JP

出典（厚生労働省）

<https://kakarikata.mhlw.go.jp/>

加工（厚生労働省）

<https://kakarikata.mhlw.go.jp/kakaritsuke/motou>

今月の表紙



雨音とともに咲く美しい花々は、元気をくれる存在です。梅雨の季節の深みを感じると共に、病院の中で病気と立ち向かう患者さんを温かく見守ってくれている気がします。医療の場でも、患者さんを思いやる優しい笑顔が心地良く広がります。このあじさいが、皆さんの心にほんのりとした季節感と安らぎを届けることを願っています。



編集後記



連絡先を交換した覚えのない見ず知らずの人からLINEやメールが届く事がたびたびあります。毎回無視ですが、『なぜ私の連絡先を知ってるの?』と思うと恐怖を感じます。

通話機能だけでなく『買い物・SNS・ゲーム・その他の便利アプリ』など、様々なことができ、もう決して手放す事ができないスマホ等の端末。そんな超便利端末を悪用する人も次々に出て来ます。自分は大丈夫と思ってる人も今一度安全にスマホ等の端末を利用できるか確認してみませんか。（事務員）

那須赤十字病院

基本理念

日本赤十字

マイタウン・マイホスピタル

～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さんの立場を尊重し、患者さんに信頼される病院をつくります。
3. 日々の研鑽を惜みず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

プラタなす 那須赤十字病院広報誌プラタなす No.39

発行日 2023年7月

発行者 那須赤十字病院 〒324-8686 大田原市中田原1081番地4

TEL 0287-23-1122 FAX 0287-23-3004

URL <https://www.nasu.jrc.or.jp> 印刷 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷